

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月22日

【評価実施概要】

事業所番号	872100284		
法人名	有限会社 カサブランカ		
事業所名	有限会社 カサブランカ		
所在地	ひたちなか市平磯遠原町17-14 (電話) 029-262-2333		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年4月17日	評価確定日	平成20年9月22日

【情報提供票より】 (平成20年3月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	14 人	常勤	3人, 非常勤 11人, 常勤換算 6人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	17,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,200 円		

(4) 利用者の概要(平成20年3月17日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	1	要介護2	3		
要介護3	2	要介護4	2		
要介護5	1	要支援2	0		
年齢	平均 82 歳	最低	65 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	恵愛小林クリニック・かむかむ歯科
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者や職員は利用者一人ひとりに温かく寄りそい、地域の中で安心して暮らせるよう、常に理念を意識しながら支援している。
職員の離職が少なく、利用者や家族と馴染みの関係を構築するとともに、職員のチームワークが良好に保たれ、利用者はアットホームな雰囲気の中で穏やかに暮らしている。
医療機関と連携が密に図られ、在宅医療や夜間診療が受けられる医療体制やターミナルケアを視野に入れた支援体制が整っており、利用者や家族の安心につながっている。
日々の生活にリハビリを取り入れ、症状の改善がみられるなど、自立に向けた支援をしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の結果、課題となった利用者及び利用者代理人の権利や義務の項目を重要事項説明書に明示している。 浴室入り口の段差解消、利用者の生活習慣や希望に応じた入浴支援、研修報告書の作成や職員に周知を図る体制などについて職員会議で話し合い改善している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者や職員は外部評価の意義を理解するとともに、職員の意見を聞きながら管理者が自己評価をまとめている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議を定期的開催し、現状の報告や地域との連携などについて討議している。 会議で出された意見をもとに、地域の草刈り作業に参加することで地域の方々から協力が得られるようになり、ホームに対する理解が深まっている。 日常的に市役所に出向いたり電話連絡等により、運営に関しての疑問や不明なことを相談している。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>事業所の相談・苦情窓口のほか、連合会や市が苦情処理機関として契約書や重要事項説明書に明示されていることを説明している。 家族からのリハビリなどについての相談記録がないことから運営に反映されていないので、家族からの意見・相談等を記録に残し、サービスに反映させる取り組みを提案する。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域のお祭りや自治会の奉仕作業に参加している。 また、中学生の体験学習の受け入れやホームの行事に地域の方々を招待するなど、地域と交流している。</p>

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	明るく家庭的な雰囲気のもと、地域社会や家族との結びつきを重視した理念を開設時より継続している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ケア会議や日々の関わりの中で理念を話し合うとともに、理念の実践に向けて一人ひとりの思いを大切に、地域の一員として暮らせるよう支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りや自治会の奉仕作業に参加している。 また、中学生の体験学習の受け入れやホームの行事に地域の方々を招待するなど、地域と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を職員に周知するとともに、外部評価で指摘された浴室入口の段差解消について職員会議で話し合い、改善に取り組むなど、サービスの質の向上に努めている。 管理者や職員は外部評価の意義を理解するとともに、職員の意見を聞きながら管理者が自己評価をまとめている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的開催し、現状の報告や地域との連携などについて討議している。 会議で出された意見をもとに、地域の草刈り作業に参加することで、地域の方々から協力が得られるようになり、ホームに対する理解が深まっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日常的に市役所に出向いたり電話連絡等により、運営に関する疑問や不明なことを相談している。 また、市担当者が気軽に立ち寄って現場の話を聞くなど、連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回利用料の支払い時を利用し日々の様子を伝えるとともに、金銭出納帳を提示し報告している。 また、ホーム便りを発行し利用者の暮らしぶりなどを伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所の相談・苦情窓口のほか、連合会や市が苦情処理機関として契約書や重要事項説明書に明示されていることを説明している。 家族からのリハビリなどについての相談の記録がなく運営に反映されていない。	○	家族等からの意見・相談等を記録に残し、サービスに反映させる取り組みを提案する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員のチームワークが良好であり、お互いに助け合いながら利用者を支援している。 離職が少なく馴染みの職員によるケアを実践している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受講した職員は研修報告書を作成するとともに、会議で研修内容を報告している。 段階に応じた研修や内部研修を取り入れ、職員の質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	茨城県高齢者認知症グループホーム協議会や小規模多機能ケアホーム連絡会に加入するとともに、近隣のグループホームと交流する機会を設けている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に職員が自宅を訪問したり、見学に来てもらったりしている。 また、「お試し入居」によりホームの雰囲気に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一つ屋根の下で家族のように接し、普段の会話の中から人生の知恵を教えてもらったり、アドバイスを受けていたりしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族から思いや意向を聴取するとともに日々の行動や表情から把握に努め、ケア会議で気付きなどを話し合っているが、アセスメントシートに記録するまでには至っていない。	○	生活を支えるためのアセスメントに向けてフォーマットも含めて記録体制の充実を期待する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成にあたって、利用者や家族、関係者と話し合っているが、意見や意向等を反映した介護計画作成までには至っていない。	○	アセスメントを含めより良く暮らしていくため、利用者の主体性を重視した介護計画の作成を期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に実施期間を明示するとともに、月1回のケア会議で話し合い、心身の状態や状況の変化に応じて見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。 評価表を作成しているが、記載して活用するまでには至っていない。	○	評価表の活用とともに再アセスメントなど、ケアマネジメントの一連のプロセスを継続的に実施する取り組みを期待する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ターミナルケア、通院介助、理美容の送迎、墓参りなど利用者等の要望に応じた柔軟な支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が以前からのかかりつけ医に受診できるように支援している。 定期的に往診があり、医師や看護師に健康・服薬について相談している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	在宅医療が受けられる体制があり、重度化した場合の対応や看取りに関して医師や家族と話し合い情報を共有しているが、書類等による記載がなく、方針を共有するまでには至っていない。	○	終末に対する対応指針を定め重要事項説明書等に明示するとともに、早期から利用者や家族、医療関係者と話し合い、対応方針の共有を図ることが望まれる。 重度化や終末期に於ける職員の対応についてのマニュアル作成等、看取りに関する書類の整備を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者と家族のように接しながらも、利用者の誇りやプライドを尊重した言葉かけをしている。 個人情報の利用目的を明確にし、家族に説明するとともに同意を得ている。 記録等は事務所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で読書をして過ごすなど、利用者の希望を取り入れながら、一人ひとりのペースで生活することができるよう支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「魚のカレーを食べたい」「パンを食べたい」など、利用者の希望を献立に取り入れている。 また、旬の野菜等を使い季節感のある食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の生活習慣を大事にし、希望に応じて入浴できるよう支援している。 入浴を拒む利用者に対しては、言葉かけを工夫し対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	水まきや草取り、掃除など利用者のできることを把握し、状況に応じた場面づくりをしている。 また、ケア会議の中で一人ひとりの生活歴について共有し、大工を職業としていた利用者に釘打ちを頼むなど、持てる力を活かした役割づくりをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に応じ散歩や外食、ホームセンターに出かけている。 また、花見など年間行事計画を立て、利用者が外出できるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の出入りがわかるようチャイムを設置し、利用者の安全面に配慮しながら鍵をかけない自由な暮らしを支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回消防署の協力による避難・消火訓練を実施するとともに、寝たきりの利用者の避難方法等自主訓練を実施しているが、訓練時に出された課題をフォローするまでには至っていない。 地域の人々の協力が得られるよう、運営推進会議を通して話し合い、自治会に依頼している。	○	訓練により明らかになった課題について話し合い、今後活かせるよう取り組むことを期待する。 利用者の安全を確保できるよう、災害対策マニュアルの作成が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理担当者が大まかなカロリー計算を行い、栄養バランスに配慮した献立を立て、往診時の看護師に相談するとともに、利用者の嚥下状態等に配慮した食事を提供している。 食事や水分摂取量をチェック表に記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やフローアに鉢植えやソファを設置するなど、ゆったりとくつろぎ居心地よく過ごせるよう配慮している。 調理する匂いや音などを感じながら、安心して過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物品の持込みが少ない利用者には、職員が籐椅子など生活感に配慮した物品を持ち込んだり、居室の一角に畳を敷いたりして安らぎのある暮らしができるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。